頭の形

今日は頭の形のお話です。特に後頭部が絶壁の様だったり、左右非対称などで気になる方はいらっしゃると思います。でも大人で心配なことはほとんどありません。個性のひとつと受け入れてください。

さて、気を付ける頭の形の病気は、少し長い名前ですが「頭蓋骨縫合早期癒合症」という乳幼児の病気です。「頭蓋骨」の「縫合」、骨と骨の間の溝のことです、「早期」早くから「癒合」くっついてしまう「症状」とかいて「頭蓋骨早期癒合症」といいます。赤ちゃんは、頭の形が左右非対称でピーナツのような形をしていることが、しばしばみられます。ほとんどは次第に頭の形が整ってきますので、まず心配はいりません。乳児検診を受けていていれば、まず心配ないでしょう。

でも1000人の0-0.5人の割合で骨と骨との間の溝が早くにくっついてしまう赤ちゃんがいます。手足が成長とともに伸びていくのと同じように、頭も成長とともに大きくなっていきます。ヘルメットの様に最初から一つの骨で頭蓋骨ができているのではなく、成長できるように左右、前後にいくつかの溝が入っています。

溝が正常にくっつくのは、おおむね一歳半くらいです。頭のてっぺんの前の方に大泉門という柔らかい部分が赤ちゃんにあります。むやみに触らないでくださいね。ここが閉鎖するのがおおむね1歳半くらいです。

この溝の一部が何らかの原因で成長前にくっついてしまうと、そこの部分の頭だけが大きくなれず、不自然な形となり、全体的に小さな頭になってします。

主な3つの頭蓋骨早期癒合症を紹介します

前頭部の正中を上下に走る溝がくっついた場合には、前頭部が三角形にとがった形の頭になります。これを三角頭蓋といいます。前頭部の髪の毛の生え際あたりを左右に走る溝がくっついた場合には、前後に頭が短くなります。「短い頭」とかいて短頭といいます。
頭の前から後ろにかけて正中部分を走る溝がくっつけば、船をさかさまにしたような形の頭になります。これを「舟」、「状態の状」、「頭」という字で舟状頭といいます。

脳は正常に成長していくのに、その入れ物である頭蓋骨の成長が追い付かなくなります。脳の成長を妨げないように、頭蓋骨を広げてあげる手術が必要になります。

手術は形成外科、脳神経外科、麻酔科、小児科など複数の協力が必要になります。
頭蓋骨に溝をつけて大きくする手術、小さな万力のような装置を埋め込んで徐々に大きくする方法などがあります。

頭の形が少し歪んでいても、心配することはほとんどありません。でも、極まれにこのような頭蓋骨早期癒合症が隠れている場合があります。

まず乳児検診はしっかり受けて、もし疑いがあれば専門施設へ紹介してもらいましょう。

あなたの街の脳かかりつけ医　ホーム脳ドクター©
元生会森山病院　脳神経外科　安栄　良悟